

事業名 福島県浜通り地区環境放射線研修会 2024年度活動報告

飯館村、大熊町、双葉町

大阪大学

福島イノベ「復興知」事業活動報告会 2024年8月29日

事業概要と目的

理念

2011年3月11日に起きた東日本大震災についてマスコミやインターネットを通じて得られる情報には、時には科学的知識と大きく乖離した風評も含まれ、正確な情報を抽出することは容易ではありません。福島浜通り環境放射線研修では、震災に関する諸問題に対して、学年・専攻分野や国籍にとらわれない幅広い背景をもった学生が浜通り地区を訪れ、環境放射線を自分たちで測定し、福島の実情を自身の体験を通じて理解し、地元の方との意見交換によって震災時の様子や、復興の過程で派生した社会的問題を認識する機会を提供します。地域や社会の問題を「正しく見て、感じて、考える」力を持ち、物事を科学的かつ多角的に見ることができるような知識と思考力を身につけた学生の育成を目指します。

目的

人材育成：未曾有の複合的な大規模災害から復興を目指すためには、科学的に分析し理解するだけでは十分ではない。「豊かな想像力を持ち、能動的に創造力を働かせ、問題解決に当たることができる」人材の育成を目指す。

期待される成果：人材を育成し続けることは、直接的間接的を問わず福島に対する問題意識を持つ人材が世に輩出し続けることになり、将来的に福島の発展的復興に資する人材が世の中に涵養されることにつながる。

活動内容

事前講義

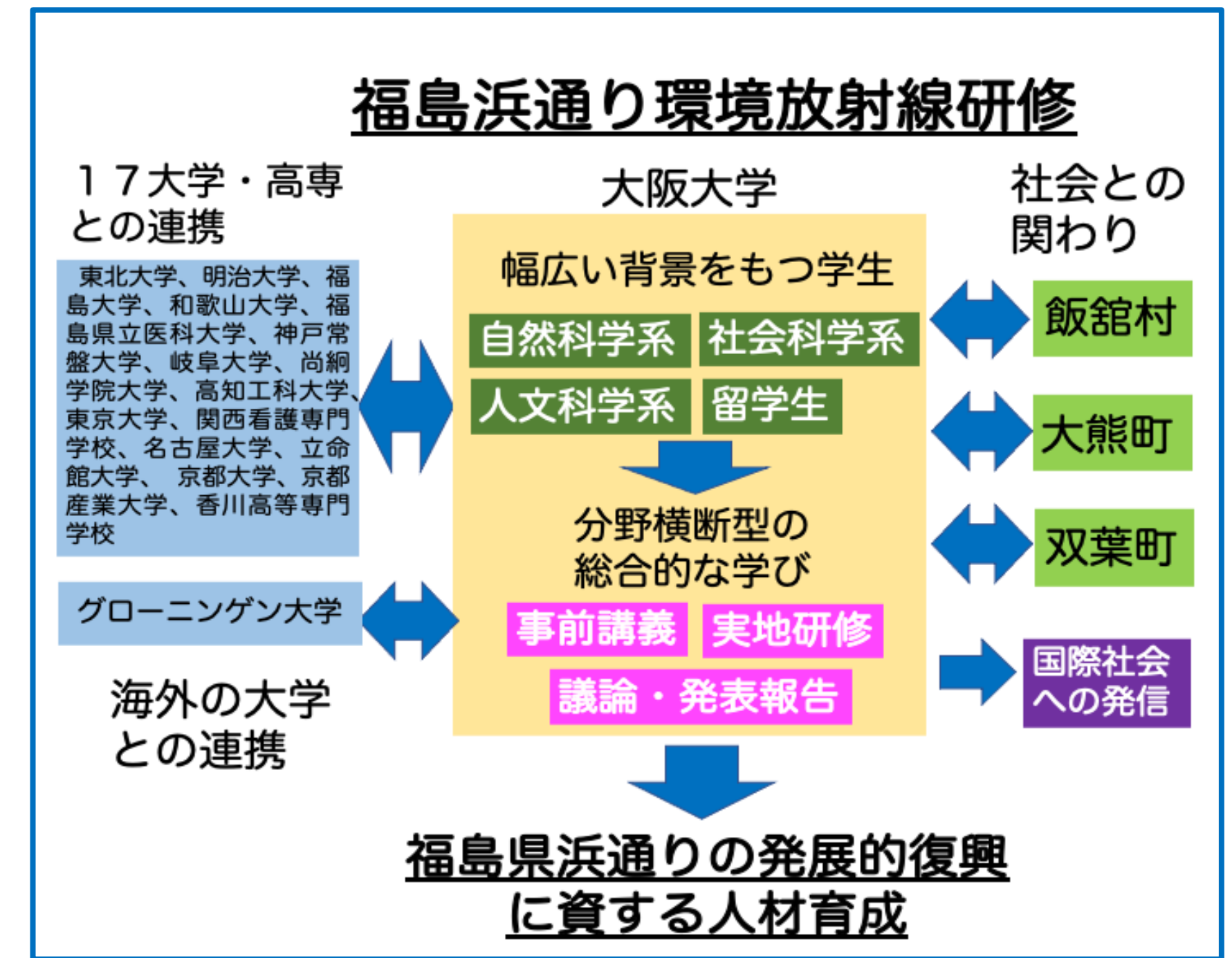
大阪大学で行われる座学と実習



- 放射線の物理・化学、社会と放射線
- 放射線の人体影響
- 東京電力福島第一原発事故と対応
- 試料採取と放射線測定方法の実習
- 学生間の議論 等

実施体制

- 2024年度
8/19-8/24、
9/9-9/14
浜通りに滞在
- 過去最大の
200名以上の
学生が飯館、
大熊、双葉の
3地域に分か
れて研修



福島浜通り環境放射線実習 2024年【8月 大熊町】予定表											
	8/19 (月)	8/20 (火)	8/21 (水)	8/22 (木)	8/23 (金)	8/24 (土)					
8:30	集合 (伊丹空港)	試料採取	試料採取	試料採取	試料採取	試料採取	集合	集合	集合	集合	集合
9:00											
9:30											
10:00											
10:30											
11:00											
11:30											
12:00											
12:30											
13:00											
13:30											
14:00											
14:30											
15:00											
15:30											
16:00											
16:30											
17:00											
17:30											
18:00											
18:30											
19:00											
19:30											
20:00											



実地研修

植物、土壌のサンプリング、空間線量測定



- 各試料採取場所で植物の葉や果実と、その場所の土壌を採取
- 現地で各自が処理、測定試料を作成
- 空間線量計「Gyoro Geiger」「はかるくん」を使い、実習中に常に携帯することで線量マッピング

放射線測定



- 現地で採取した植物、土壌試料をNaI検出器でγ線測定、放射能濃度 [Bq/kg] の算出
- 植物と土壌の線量について、場所を変えて比較考察
- 線量を数値を通して科学的に分析

交流



地域の方々と顔を合わせ、直接話をする場を設けたり、訪問先では復興の様子や色々な震災時の状況を伺った。当時の様子や復興に至る考え方や想い、復興の現状を知ることができた。

議論



「研修を通して学んだことを誰と共有しよう伝えるのか？」をテーマにその日に見たこと経験したことを班ごとに繰り返して話し合い、議論を深めた。

見学



東京電力福島第一原子力発電所や震災で被害を受けた爪痕がそのまま残る帰還困難区域を見学した。震災の当時の状況や現在の復興にいたる過程、様々な社会問題を自分の目で直接確かめた。

まとめ

成果報告会、発展放射線実習



- 全体報告会が行われ、各班10分程度、実習中にそれぞれ話し合った内容をまとめ共有した
- 採取した試料は大阪大学のGe半導体検出器を用いて精密な放射線測定を行い、さらに考察を進めた

訪問自治体への報告、国際社会への発信



- 飯館村、大熊町、双葉町で最終報告会を行った
- グローニンゲン大学（オランダ）にて学生シンポジウムを開催し、環境問題を議論した

成果および今後の見通し

- 今年度の研修は大熊町に開設した大阪大学福島拠点を中心に、参加人数を増やしての開催を予定している（8月、9月）。これまでの大学生への教育を発展継続しながら、社会からの求めに応じて小中高校の教員や一般社会人への教育事業としても開催する。
- 今年度から福島拠点に常駐の職員を配置しており、拠点から本研修をバックアップできる体制を構築した。これにより、本事業で目標としている「福島県浜通り地区の発展的復興に資する人材育成」の事業が強化されるのと同時に、将来にわたり福島キャンパスを見据えた国際的に活躍できる人材を福島県浜通り地域で育成・輩出する体制が強化された。

本事業は、元は大阪大学の土壌調査プロジェクトから発展した取り組みであり、現在は学生への教育プログラムとして日本のみならず海外の大学にも広がっています。福島県浜通り地域が世界から非常に魅力的な「教育・研究地域」として認知され、なおかつ浜通り地域を「第二のふるさと」と感じてくれる人が増えるような活動を今後も発展的に継続していきます。事業を支えてくれている飯館、大熊、双葉をはじめとする浜通りの各自治体の方々、および福島イノベ機構「復興知」事業の素晴らしい取り組みに感謝します。